

---

# とある少女の異世界勇者日記

ルキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある少女の異世界勇者日記

### 【Nコード】

N0431K

### 【作者名】

ルキ

### 【あらすじ】

今まで普通に平凡な世界を暮らしていた少女・「レイ」は、なぜか異世界「ワンダードリーム」に連れてかれ、様々な人と仲間になり、「夢の欠片」を集め、世界を救う……はずの物語。

『ワンダードリームを救う旅』の続編です！そちらを読んでいない方は、読んだ方が話が分かると思います。『ワンダードリームを救う旅』 [http://ncode.syosetu.com](http://ncode.syosetu.com/n5280j/)

/n5280j/

1 話 異世界日記 (前書き)

## 1話 異世界日記

「……………!?!」

「うわあああぁっ!」

怖すぎて声が出せないレイと、いまだに叫び続けてるヘルツの二人は、今もまだ落下中。下に見えるのは米粒程の小さな人と緑と色とりどりの屋根。

「へ、ヘルツ。」

少し慣れてきて、声を出せるようになったレイ。

「どうした!?!」

「落ちる落ちる落ちる落ちるウウウウウウ!」

恐怖で大変なことになっていた。

…は、まあ一旦置いていて。

「おいつ!?!」

「死ぬー!」

「……。」

地上では、片手で熱心に本を読んでいる青髪にメガネをかけた青年が歩いていました。

パラ

聞こえるのはページをめくる音だけ。

(静かでいいな…)

そう思っていると

「ユウトオオ!?!」

「…チッ」

空から、少年・ユウトを呼ぶ叫び声が聞こえた。読書のさまたげになるので足を止めて上を見てみると、この世で一番嫌いな奴の顔が。

「ヘルツか。朝っぱらからうるさ…!!?!」

もう一人の落ちてきていた少女の目を見張り、

「ヘルツは良いとして…なぜ少女が空から落ちてきてるんだ?」

ヘルツはどつでもいらしい。

「助けるおお!」

読書の妨害をしている上に助けると命令口調だったので、高まるユウトの怒り。

「お前は自力でなんとかしろ。」

そう呟いた。

（死んじゃうのかな…まあそうだよな。落ちたところかなり高いもんね。短い人生だったなあ…。）

現在16歳のレイが人生に別れを告げながら、着々と近づいてる地面に落下するのを目をつぶっていると待っていた

ふわっ

が、落ちなかった。ゆっくり目をあけてみると、

「大丈夫??？」

ユウトにお姫様だっこされていた。

「あ、大じよ…」

「ユーウトー!? テメエなんでレイを助けて俺を助けないんだよ!??」

レイの言葉をさえぎって、ヘルツが怒りながらユウトにつめ寄った。

「大丈夫です。ありがとうございます」

「どういたしまして…／＼／」

ヘルツを無視してレイが笑顔でお礼を言うと、ユウトが顔を赤くしながらレイを降ろした。

「って無視！？なあ無視なの！？」

「うるさい黙れ。」

「ユウトはいつものことだとして、レイ酷い！」

(ヘルツっていつもこんな扱いなんだ…。)

レイは無駄な知識を得た。

「…なんで耳だしてんの？しまつとけっつーに。」

「あ、そだった。忘れてた。」

ヘルツの耳と尻尾がしまわれた(?)

「ええっ！？それってしまえるの？てか本物？？」

「本物に決まってるんだろ。」

「決まってない！じゃあさ、なんで僕の家来たときにしまわなかったのさ？」

「はあっ！？お前ウ…じゃなかった、レイの家に行ったのかというかなんで空から落ちてきたんだよ！」

( (ウ???) )

何を言いかけたのか気になったが、まあそれは置いて。

「行った行った。なんせレイを異世界から連れてくる役目だったからな。」

「ほお…異世界。」

「空から落ちてきた理由は、この世界を救え！とかで。…って理由になっただけでなくね!？」

レイは自分で言っただけで自分でっつこんだ。

「大変だな。あ、それとこんなのが落ちてきたんだけどお前らのか??？」

大きな袋を二人の目の前に置いたユウト。

その袋には紙が張ってあって『レイへ ケイトより』と書いてあった。

「あ、僕のだ。」

「てか聞かなくてもわかるだろ？」

「なんとなく。」

ユウトはなんとなく持ち主が分かっているものを誰のか聞いたみたいだ。

「えーっと…中に紙が入ってるから読むねー。『この中に旅に大切そうなものを入れといたぞ。使っとくれ。使い方などはヘルツがしつとるじやろう。ま、しつかりな。』 だつてさ。」

「俺巻き込まれたんじゃなかったの!？」

「初めから落とすつもりだったんだな。」

「あ、『PS・ヘルツ落としちゃってゴメンネ。わざとじゃ無いんじゃない。』 ってめっちゃ下のほうに書いてあった。」

「わざとだろ!絶対わざとだろ!俺らが落ちてすぐに落とされたぞこの袋!絶対しくまれてたんだ!」

「ドンマイ。」

「フツ。」

レイはヘルツの肩をポンツたたき、ユウトは鼻で笑った。

「ケンカ売ってんのか!？」

「ハッ、誰がお前なんか売ってやる?ま、今なら大セール中だ。」

「上等」

「はい、やめーい。」

(ケンカしてるけど…実際仲良いんだろうなあ。)

また無駄知識を得るレイでした。

1話 異世界日記（後書き）

読んでくださり、ありがとうございました

誤字・脱字等ありましたら教えてください！

## 2話 家日記(前書き)

今回は短いと思います。

## 2話 家日記

「さて、中にはこんな物が入っていました。」

レイは袋から出した物を草の上に綺麗に並べた後、二人に言った。並べられている物は、剣（鞘付き）、豆、………のみ。

「剣は分かるとして、豆はなぜ大切？」

「ああ、その豆はな、こうやって地面に埋めると……」

レイの質問に、ユウトが答えながら豆を地面に埋めると、そこに軒家が建った。

「おおー。」

「実物を見るのは初めてだ……。」

「……こんな珍しいものどこで手に入れたんだ??」

3人は思い思いの事を言いながら、家へ入って行った。

「……って、ヘルツとユウトは家があるんじゃないの??」

「……まあ、気にするな」「」

「これから当番を決めようと思う！」

3人は現在、リビングで会議を始めていた。

「当番？何の当番だ？」

「どうせ掃除当番とか食事当番とかそんなんだろ。」

「ユウト、正解っ！」

なぜか張りきっているレイ。

「……めんどくさい……。」

それに比べてテンションがめちゃくちゃ低い男子二人。

「じゃあ、まず食事当番。どついつ順番にするっ？」

そんな二人を無視して司会をするレイ。

「じゃ、どつは適当にヘルツ ヘルツ ヘルツ、で。」

「それ俺一人で毎日やれって意味かよ！」

「そついつのは無し。じゃ、他に意見はー？」

「……………」

「意見無いの？それじゃ僕 ヘルツ ユウトの順番で。反論は？？」

「無いな。」

「ああ、それでいいんじゃない？」

「じゃあ決まり！えーっと…次は掃除当番！！」

「この掃除当番決めは過酷な争いとなり、翌日まで続いたそうだ…」

## 2話 家日記(後書き)

読んでいただき、ありがとうございます

誤字・脱字ありましたら教えてください。

### 3話 食事日和

「…これは一体??」

今から朝食を食べようとしているユウトとレイ。

だがしかし、皿の上には変な黒い物体が置いてあった…!

「今日の当番はヘルツだったよな?」

「うん、そのはず。」

「ああ、俺が作ったぞ?」

この黒い物体を作ったと思われるヘルツがやってきた。

「…これは何??」

「米。」

黒い物体≡米。

「…あり得ないっ!」

「…そうだな。よく見ると米に見えないな。」

「一瞬で気づくよね!」

ヘルツの視力を疑うレイと、

「お前はバカか??」

改めてヘルツがバカな事を再確認したユウト。

「料理が下手なんだよ!」

「「当番決めるときに言え(言いなさい)!!」」

ガツッ

「…じゃあ、とりあえず俺が作るわ。二人は待ってる。」

ユウトはヘルツの口に黒い物体を入れ、台所へ行った。

「はーい。」

「…」

とりあえず食べられる物を食べたいレイと、黒いのを食べて気を失ってしまったヘルツでした。

「じゃ、とりあえずどうやってこの世界を救えるのか教えてもらおうかな??」

無事、朝食も終わり、肝心な事を聞くレイ。

「お、世界を救ってくれる気になったのか？」

ついさつき起きたヘルツが、意外そうな顔をする。

「じゃないと元の世界に戻れないでしょ？」

「そりゃそうだな。」

ヘルツの代わりにとっても美味しい料理を作ってくれたユウト。

「この世界を救うためには、夢の欠片を台座に一つずつ置いていくことだな。」

「夢の欠片は全部でいくつあるの？」

「10個」

「いや、12個だろ。」

「いや、10個だ!!」

「12個!!」

ユウトとヘルツは大事なところでケンカになってしまった。

「えーっと…そこが分からないと大変なんだけど?？」

「12個だよ。お姉ちゃん。」

「あ、ありがとう…って、えっ!??」

突然現れた幼い声にびっくりするレイと、

「誰だっ!?!」

ケンカをやめ、仲よくはもる二人。

「仲よくねえ!」

あははは。

「ナレーションが入ってくんな。で、今の声誰?」

「僕だよ」

声の主は窓から入ってきて、3人の前に立った。

「なんで窓からっ?」

驚くヘルツとレイと

「なんでお前がここにいるんだ?」

少年の事を知っていたらしいユウト

「きにしないきにしない。にしても、相変わらずバカだねえ、ヘルツお兄ちゃん。」

「誰だっけ?」

「俺（ユウト兄）の弟だよ！」

新事実、発覚！

「へえ。ユウトの弟なんだ。名前は？」

「グレンだよ。お姉ちゃんの名前は？」

ユウトの弟、グレンが言った。

「僕はレイ。よろしくね。」

「うん。よろしくー。」

「で、なんで来たんだ？」

「ユウト兄が帰ってこないから、一人で面白いことやってんじやないかな〜って思ってたさ。」

「…なんでお前の思考はそっちにいくんだ。普通はそんな事思わないだろ。社会でちゃんとやっていけるのか…？」

グレンの将来を本当に心配し始めたユウト

「大丈夫だよ。ヘルツお兄ちゃんより頭悪くないから。」

「なっ！？それは一体」

「「「そうだね（な）。」」」

ヘルツの反論もむなしく、納得してしまう二人。そんな二人を見て、ヘルツは体育座りになって「の」の字を書き始めた。

「じゃ、今日からよろしくね〜」。

「なつ　　!?!」

レイの仲間にもまた一人加わりましたとさ

### 3話 食事日和（後書き）

誤字、脱字がありましたら教えてください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0431k/>

---

とある少女の異世界勇者日記

2010年10月10日01時49分発行